

第 2 次米子市環境基本計画改定版パブリックコメント概要

番号	意見（概要）	米子市の考え	計画への 反映
01	再生可能エネルギー事業において、参加企業や団体の資金調達先や融資元などの情報が公開されていないケースが多く、事業の透明性に懸念がある。官民連携による取組を進める上で、資金の流れや企業情報を開示することが、行政への信頼性や政策の透明性を高めるために重要である。したがって、再生可能エネルギーに関する情報公開を強化すべきである。	<p>官民が連携して事業を進める上で、連携先の選定は事業者の実績やノウハウをもとに判断するものであり、その事業に参加される企業及び団体の資金調達先や融資元の情報は、必要に応じて当該企業及び団体において公表されるものと考えている。</p> <p>本市においても事業の透明性を確保できるよう、引き続き情報の公開に努める。</p>	無
02	鳥取市や米子市で導入が進められている自動運転バスに中国 BYD 製車両が使われていることについて、安全保障や情報セキュリティに懸念がある。特に、中国企業の政治的背景や AI システム「Deepseek」の安全性に懸念があり、自動運転車両を推進するのであれば海外企業ではなく日本企業の車両導入を求める。	<p>米子市が取り組む自動運転バス実証事業は、国内で有数の実績を誇る(株)BOLDLY の事業提案によるもの。提案内容については、業務実績や安全性など様々な観点から総合的に審査をしており、使用車両の国・地域を理由とした判断はしていない。なお、今回使用する車両は、BYD 社ではなく WeRide 社製の「Robobus」という車両であり、この車両は渋滞中を含む車線変更など、これまで国内導入された車両では困難な動作が、安全かつスムーズな形で実現可能とされている。</p> <p>ただし、今後、具体的に事業推進するにあたっては、使用車両や AI 技術のセキュリティ面について関係機関と必要な連携をとるなど、市民の安全と安心に十分配慮しながら進めていく。</p>	無
03	太陽光発電や電気自動車（EV）の普及が進む中で、蓄電池に関する安全性や法制度の整備が十分ではないことに懸念がある。特に EV 車両は固定式の蓄電池よりも大容量でありながら、消防法上の届出や定期確認の対象外となっており、安全管理が不十分であると考えられる。さらに災害時に電源として利用できる	米子市としては、蓄電池や EV 車両に関する安全基準や消防法上の届出制度は国の法令に基づいて運用されており、市が独自に規制を設ける権限はない。市としては、再生可能エネルギーや EV の普及を進めるうえで、安全性を前提とした市民理解の醸成に努める。	無

番号	意見（概要）	米子市の考え	計画への反映
	<p>とされているが、その安全性や実効性について十分な検証が行われているとは言い難い。</p> <p>環境計画を進めるにあたり、蓄電池および EV 車両に関する現状認識の見直し及び安全性を配慮した方針・制度整備を求める。</p>		
04	<p>中海は米子市のみならず周辺自治体にとって重要な地域資源であり、親水護岸公園の整備により住民が中海と触れ合う機会が増えることを期待する。中海が観察の対象から体験の場へと発展し、新たな環境学習の機会が生まれることを望む。</p>	<p>中海は複数の自治体にまたがる水域であり、環境保全や利活用の推進には県や関係市町との連携が不可欠である。米子市としては、鳥取県および中海・宍道湖・大山圏域市長会等を通じて、広域的な環境学習の仕組みづくりや、新たに整備する米子港広場を利用した水質保全・生態系保全の取組の可能性の研究を進めていく。</p>	無
05	<p>第2次米子市環境基本計画において、再生可能エネルギー導入の項目に分散型エネルギー構築と地域循環形成の視点を明記してほしい。現行案では太陽光発電など供給面に偏っており、皆生温泉地区が有する温泉熱や地熱、風力、地下水などの自然資源を活かした地域内エネルギー循環の可能性が十分に反映されていない。これらを統合的にマネジメントすることで、災害時にも機能するレジリエントな都市構造を実現できる。また、地域企業や住民、大学、観光事業者と協働し、エネルギーを地域社会の共通資本として運用する仕組みを構築することが望ましい。</p>	<p>提案内容については、皆生温泉地区をはじめ、本市の街づくりとして重要な取り組みであると認識している。一方で、現時点において本市では分散型エネルギー構築と地域循環形成に関する具体的な実施に向けた決定には至っていない。今次の作業は新規の計画策定ではなく、既存計画の改定という性格を踏まえ、現段階で実現の確度が十分とは言えない施策については、計画には盛り込まない形で整理するのが適切と考えている。</p> <p>一方で、提案内容の主旨である再エネ以外に関する街づくりを絡めたエネルギー施策に関しては、理念として計画本体に含めることとした。</p>	主旨反映 (P36)

番号	意見（概要）	米子市の考え	計画への 反映
06	<p>第2次米子市環境基本計画において、水循環の再構築と「米子の水」のブランド活用を明確に位置づけてほしい。米子市は中海・湧水・温泉・日本海など多様な水環境を有し、水道水の品質も全国的に高く評価されるが、現行計画では水質保全や啓発に偏り、水を積極的に活かす観点が不足している。水を単なる環境要素ではなく、公共的文化資産として位置づけ、「水がめぐるまち」という都市像を示すべきであると考え。また、既存の「おいしい水道水」のブランド価値を、環境政策や観光、教育活動と統合し、市民が誇りを持つ「水を誇る文化」を育む取り組みを推進すべきである。さらに、皆生温泉や米子水鳥公園など、水と人が触れ合う場を拠点として、体験・学習・発信の複合的公共空間を整備し、市民参画型の意識循環と地域ブランドの向上が期待できる。</p>	<p>番号05と同様に今次の計画改定においては、個別具体的なプロジェクトを盛り込むことまでは考えていない。一方でご提案の趣旨については、理念として計画本体に含めることとしたい。</p>	<p>主旨反映 (P49)</p>